

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503759), 法人名 (有限会社 時館), 事業所名 (グループホーム あいあるみすまい), 所在地 (札幌市南区簾舞3条5丁目8-33), 自己評価作成日 (令和2年10月31日), 評価結果市町村受理日 (令和2年3月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<利用者様個々の生活を尊重し、明るく笑顔で暮らせる環境を作る>をモットーの... 職員には常に利用者様に安心かつ安全にして生活していただけるよう、日々精進しております。...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0170503759-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年3月3日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道230号線に面したバス停も至近距離にあり、家族が訪れやすい環境にある。周辺は公園、小学校、コンビニ、寺院等が建ち並んでいる住宅地に位置している。...

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに、理念を掲げている。	法人理念を基本に10項目からなるケア理念を策定し、事業所内に掲示している。理念はあるべきものとして職員に浸透しており、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の影響で、以前のような多岐にわたる交流はできていない状況だが、少人数でのパレエ発表会を近日、施設内で行う予定である。	コロナ禍により地域活動は自粛しているが、回覧板にて情報は得られており、管理者は総会への出席を予定している。馴染みのパレエスタジオからの提案で、フロアで子供達による踊りが披露されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対しての発信は行われていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、活動休止していたが、町内会長と連絡・相談したうえ、活動再開に向けている。	例年、会議は定期的開催し、推進委員からの質問等は管理者から説明して理解に繋がっていたが、現在は、書面会議としている。地域包括職員から感染予防対策への助言と励ましの言葉を得ている。	推進委員が固定化され家族の参加が得られていないことから、イベント前後の開催等も視野に入れ、幅広い参加要請への取り組みに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各担当者と、必要な連絡をとっている。	運営上の案件や報告書等に関しては、電話やメール、FAXを活用して行政と情報を共有している。認定調査で来訪の担当者とは情報交換を行い、利用者の安心ある生活を支えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回行われているミーティングで、注意喚起をおこなっている。	身体拘束や虐待のないケアは当然のこととして受けとめ、日々の関わりで実践に努めている。適正化委員会や研修会を定期的開催し、グレーゾーンを含め正しく理解している。職員間でも注意し合える関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待においても上記同様、注意喚起をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が理解しておらず、ごく一部の職員のみにも留まっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、しっかりと説明をおこなっており、質問に対しての説明もしっかりおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階ホールに意見箱の設置をして対応している。また、ときに電話連絡をし、近況説明をおこなっている。	面会も制限があり、ゆっくり家族から意見を聴くことは難しいが受診結果やケアプラン作成時、都度の報告等は電話で行い意見を得ている。毎月、事業所便りを送付し、家族から様子が分かるとの言葉が寄せられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、本社で行われている経営会議で、各事業所の意見や問題等を話し合っている。	職員の離職率は低く、利用者や家族にとって安定した関係性にある。職員は、得意分野を生かし、それぞれに業務の一翼を担っている。職員の運営上の意見や個人的な要望を管理者や副管理者が受けとめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回行っている個別面談で、職員の思いなどをすくい取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別で力量を把握する環境にある。研修は不定期で参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の同業者との交流は用意されていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ときに職員同士での話し合いをふまえて、利用者様が納得・安心できるようなサービスに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に初期の段階では、ご家族様と密接に連絡をし、満足いただけるようなサービスができるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者およびケアプラン担当者が中心となり、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安を訴えるまたは不穏な様子の利用者様に対し、傾聴や安心足りうる声掛けを行うよう指導している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と電話連絡をとり、近況や必要な物の購入に関しての相談をおこなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状、おこなっていない。	自粛があり、家族とは玄関先でほんの少しの時間、面会が叶い、利用者の笑顔が見られている。感染症予防対策に留意して、恒例であるバレエスタジオの生徒が踊りを披露、利用者様は可愛いらしさに目を細めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションまたは職員が間に入っての利用者様との談話ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行なわれていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各フロアでのカンファレンスやミーティングで話し合っている。	利用者との会話や表情、選択肢を用意して、思いの把握に努めている。アセスメント表や介護記録も参考に職員間で話し合い、満足が得られるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の情報については、スタッフルームに保存しており、職員が閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主としてカンファレンスによって話しあわれている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに基き、ケアプラン担当者が関係者と話し合い、多角的にみて計画に反映させるようにこころがけている。	介護計画は、利用者担当職員が定期的にモニタリングやアセスメントを行い、それを基にユニット会議で利用者や家族の望む支援目標を策定している。介護計画書を添付した介護記録になっており、実践をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録やカンファレンスを活用し、毎日のケアに活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ときに職員の意見を反映しつつ利用者様にとって適切と思われる支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人の生活を支えるために必要な資源に】 においては、可能なかぎり生活の質を豊かにできるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様が対応できない場合は、職員が受診対応を行なう。また、御家族様に理解していただいたうえで、往診をおこなっている。	月2回、協力医による訪問診療と必要時に歯科医の往診体制を整えている。入居以前の医療機関の受診は、基本的に家族が対応し、専門医は、家族と協力して職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員2名、週4回来ていただいている。時間外でも、電話にて相談などの連絡体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医師または看護師との連携は、しっかりとっている。関係作りは、往診先病院の紹介等でおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化。終末期に関する説明は、契約時におこなっている。実際、そのような状態が近づいてきた時は、ご家族様と話し合い、適切な支援を行えるよう心掛けている。	入居時に重度化や看取り時の対応指針を説明し、同意書を交わしている。これまで看取りの経験はないが、日々の中で利用者の意向を汲み取り、その実現に向けて、職員は資質向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やミーティングで実践力を身につけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・規定マニュアルに沿って災害対策のシュミレーションをしている。	年2回、夜間想定自主訓練を行い、緊急連絡網に町内会長の登録、一時避難場所の確認、非常時の飲食物品や必要品を用意している。法人や系列事業所とは、バックアップ体制にある。	自然災害時の実践的訓練や入浴時等のケア場面の対応、一時避難場所までの実践的訓練、コロナ対策も視野に入れた非常時必要品の充実等を検討しているので期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性に伴い、その方にあつた対応をしている。	お喋りをしたい利用者には静かに傾聴し、活動的な人には運動を勧めている。呼称は名字を基本とし、同性介助の要望を受けとめ、申し送りは連絡ノートを共有するなど、人生の先輩として節度ある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、不自然にならないように、人格を尊重した対応をするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で話し合いながら最良と思われるケアができるよう、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣前に、衣類の選択をしていただくなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ自力摂取できるよう、キザミや道具を選択している。準備・片付けは、できる範囲のうで手伝っていただいている。	献立と調理した惣菜が、業者から届いている。麺や丼物、カレーの日もあり、利用者は南瓜などを盛り付け、食事時間を楽しんでいる。さらに、とろろ汁ご飯、寿司ご飯、暑い日はソーメンにするなど、利用者の要望も反映しながら、柔軟な食事内容になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量のチェックと体重の変化を把握し、必要があれば、食事の提供法や形態などの変更を検討し、支援をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、状態を観察している。必要時は、主として往診の歯科医に対応していただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切と思われる時間に声掛けや誘導を行い、失敗の軽減を支援している。	排泄チェック表を基に、自力排泄者の見守り、声かけでトイレへ誘導、ベッド上での交換などがあるが、尊厳に配慮したケアが行われている。職員の支援により、衛生用品が1ランク下の製品になった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の体質に合わせ、乳製品などで排便を促している。乳製品禁止の利用者様には、処方された下剤等で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調を考慮して行っている。拒否がある場合は、時間をおく、声掛けする職員を変える等をして支援している。	入浴は週2回を基本に、入浴剤入りの湯船で寛いでいるが、状況により足湯にシャワー浴で保清に努めている。入浴中は、会話を多くして、昔話や歌声を傾聴している。入浴拒否もあるが、家族の力も借りて入浴に繋げ、水分補給にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、スタッフルームに配置しており、職員が閲覧できるようにしている。薬を変えたことにより体調の変化が生じた場合は、すぐに24時間対応の往診先に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍のため外出は控えているが、室内でのイベント等で、楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は受診以外は行っていない。希望された利用者様には、コロナ禍の現状を説明し納得していただいたうえ、施設玄関のベンチにて外気を感じていただくのみの対応をしている。	外出レクの企画を継続的に行い、さらに個別の外出支援を目標に検討を進めていたが、コロナ禍により中断している。玄関前のベンチで外気浴や受診時に車の窓を少し開けて外気を取り込む程度にとどめている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態に応じ、支援出来る範囲でおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に、職員から率先しておこなっていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアを勢よく閉める利用者様のドア側面には、スポンジや防音吸収材を使用して対応している。貼り絵や手書きのポスターで季節感を感じていただいている。	居間の大きな窓からは日差しが入り、開放的な設えになっている。廊下や居間などに鍋物のイラストや折り紙での雛飾り、習字など、レクでの作品等が掲示されている。利用者は、ソファや椅子に腰掛け、テレビや読書等を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に3つのテーブルがあり、自由に座れるようになっている。またソファも設置されており、一人になれる空間をつくっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族様の意見を取り入れ、居室の配置を決めている。	6畳ある居室には、ベッドやクローゼットが設置されている。ダンスやテレビ、毎朝ご飯を供えている仏壇、写真、ぬいぐるみ、レクでの作品、キラキラした装飾品等は、利用者にとって落ち着ける環境の一助になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内には複数箇所に手すりを設置し、安全な移動ができる様にしている。		